

くすりのしおり

内服剤

2026年07月作成

薬には効果（ベネフィット）だけでなく副作用（リスク）があります。副作用をなるべく抑え、効果を最大限に引き出すことが大切です。そのために、この薬を使用される患者さんの理解と協力が必要です。

製品名：ペルマックス錠 250 μ g

主成分：ペルゴリドメシル酸塩 (Pergolide mesilate)

剤形：うすい緑色の錠剤、長径 11.7mm、短径 6.4mm、厚さ 3.8mm

シート記載など：KH121、ペルマックス 250 μ g、PERMAX250



この薬の作用と効果について

脳内の神経伝達物質（ドパミン）の受容体（D₁およびD₂）を刺激して、手のふるえ、筋肉のこわばりや動作が遅くなるなどの症状を改善します。

通常、パーキンソン病の治療に用いられます。

次のような方は注意が必要な場合があります。必ず担当の医師や薬剤師に伝えてください。

- ・以前に薬や食べ物で、かゆみ、発疹などのアレルギー症状が出たことがある。心エコー検査により心臓弁膜の病変があると診断された、またはその既往がある。
- ・妊娠または授乳中
- ・他に薬などを使っている（お互いに作用を強めたり、弱めたりする可能性もありますので、他に使用中の一般用医薬品や食品も含めて注意してください）。

用法・用量（この薬の使い方）

- ・あなたの用法・用量は（：医療担当者記入）
- ・通常、成人は1回主成分として50 μ gを1日1回夕食直後から2日間服用します。以後、2～3日ごとに1日50 μ gずつ増量され、第1週末には1日150 μ gを服用します。第2週目は1日300 μ gから開始され、2～3日ごとに1日150 μ gずつ増量され、第2週末には1日600 μ gを服用します。1日100 μ gでは朝夕の食直後に、1日150 μ gでは毎食直後に分けて服用します。第3週目は1日750 μ gから開始され、以後、有効性や安全性を考慮して徐々に増量され、維持量（標準1日750～1,250 μ g）が定められます。服用量の増量速度は症状、年齢により適宜増減されます。本剤は1錠中に主成分250 μ gを含みます。必ず指示された服用方法に従ってください。
- ・飲み忘れた場合は、気がついた時にできるだけ早く1回分を飲んでください。ただし、次に通常服用する時間が近い場合は飲まずに、次の服用時間に1回分を飲んでください。絶対に2回分を一度に飲んではいけません。
- ・誤って多く飲んだ場合は医師または薬剤師に相談してください。
- ・医師の指示なしに、飲むのを止めないでください。

生活上の注意

- ・前兆のない突発的睡眠、傾眠（睡眠に近い状態）が現れることがありますので、自動車の運転、高所での作業、危険を伴う作業には従事しないでください。

この薬を使ったあと気をつけていただくこと（副作用）

主な副作用として、不安・興奮・焦燥感、ジスキネジア（手足・体が無意識に動く）、めまい・ふらつき、吐き気、嘔吐、胃部不快感・胸やけ、食欲不振、幻覚、妄想などが報告されています。このような症状に気づいたら、担当の医師または薬剤師に相談してください。

まれに下記のような症状があらわれ、[]内に示した副作用の初期症状である可能性があります。

このような場合には、使用をやめて、すぐに医師の診療を受けてください。

- ・高熱、体のこわばり、手足のふるえ [悪性症候群]
- ・発熱、咳、息苦しい [間質性肺炎]
- ・胸の痛み、息切れ、息苦しい [胸膜炎、胸水、胸膜線維症、肺線維症、心膜炎、心膜滲出液、心臓弁膜症]
- ・背中での痛み、下肢のむくみ、尿量が減る [後腹膜線維症]
- ・突然の耐えがたい眠気 [突発的睡眠]
- ・実際には存在しないものを存在するかのようを感じる、根拠が無いのにあり得ないことを考えてしまう、軽度の意識混濁 [幻覚、妄想、せん妄]
- ・嘔吐、便やおならが出にくい、腹痛 [腸閉塞]
- ・意識の低下、短時間意識を失い倒れる [意識障害、失神]
- ・体がだるい、食欲不振、皮膚や白目が黄色くなる [肝機能障害、黄疸]
- ・歯ぐきの出血、あおあざができる、出血が止まりにくい [血小板減少]

以上の副作用はすべてを記載したものではありません。上記以外でも気になる症状が出た場合は、医師または薬剤師に相談してください。

保管方法 その他

- ・乳幼児、小児の手の届かないところで、直射日光、高温、湿気を避けて保管してください。

- ・薬が残った場合、保管しないで廃棄してください。廃棄方法がわからない場合は受け取った薬局や医療機関に相談してください。他の人に渡さないでください。
- ・[ご家族の方へ] 社会的に不利な結果を招くにもかかわらずギャンブルや過剰で無計画な買い物を繰り返したり、性欲や食欲が病的に亢進するなど、衝動が抑えられない症状があらわれることがありますので、これらの症状があらわれた場合には医師に相談してください。

医療担当者記入欄

年 月 日

より詳細な情報を望まれる場合は、担当の医師または薬剤師におたずねください。また、「患者向医薬品ガイド」、医療関係者向けの「添付文書情報」が医薬品医療機器総合機構のホームページに掲載されています。

SI①